

# 海外派遣者の帰国後の飲酒の追跡調査

森 忠繁, 明石信爾, 松田 昭

(中国短大)

佐々木武史 (京府医大・衛生)

額田 粲 (東邦大・医・衛生)

## 1. はじめに

中部ビルマ, イラワジ河中流にあるサレー附近, および東パキスタンのチッタゴンの附近に派遣された重工業技術者を対象にアンケート調査し, 飲酒に対する海外派遣の影響について既に発表した<sup>1)</sup>。ビルマ派遣者も東パキスタン派遣者も全員が, 昭和45年10月に帰国している。帰国後の飲酒頻度, 飲酒量, 飲酒に対する価値づけなどを調査し, 現地における飲酒状況と比較を行って, 海外派遣に対する飲酒の影響について検討を行った。

## 2. 調査方法

現地において飲酒のアンケートを得た者80名について, 昭和47年3月～6月に, 帰国後の飲酒頻度, 飲酒量, 飲酒についての価値づけに重点をおいたアンケートを郵送し調査を行った。昭和47年4月7日の急行阿蘇号の郵便車の火災事故で一部未着のものがあったと思われるので, 未着のものに再び5月にアンケートを郵送し調査を行い, 万全を期した。転職者や住所不明のものなどを除き, 回答を得たもの66名(ビルマ25名, 東パキスタン41名)について集計した。集計に際し, 現地における調査回答を再抽出し, 帰国後の調査結果とを対比できるようにした。

## 3. 調査成績

### 3.1. 帰国後の回答者の属性

表1に示すように, 20才台が過半数を占め, 東パキスタンに若い者が多い( $\alpha < 0.05$ )。職種では, 技術系職員が約3分の2を占める。半数以上が既婚者であるが, ビルマ派遣者に未婚のものが少ない( $\alpha < 0.01$ )。学歴では, 高卒が半数以上を占め, 同胞順位では中間子が半数以上を占めている。趣味では, 屋内(文化)7.6%, スポーツ42.4%, 両方24.2%, なし25.8%となっている。これら帰国後の飲酒調査の回答者の属性は, 現地における調査者80名の属性と極めて類似しており, ビルマおよび東パキスタン派遣者別でも属性は極めて類似している。

表1 回答者の属性

		ビ ル マ	パ キ ス タ ン	両 者	N
年 齢	※ 20 ~ 29才	36.0%	61.0%	51.3%	34
	30 ~ 39	44.0	29.3	34.8	23
	40 ~	20.0	9.8	13.6	9
職 種	専門技術者	16.0%	29.3%	24.2%	16
	技術系職員	80.0	68.3	72.7	48
	事務系職員	4.0	1.2	3.0	2
婚 姻	※ 未 婚	12.0%	53.7%	37.9%	25
	既 婚	76.0	43.9	56.1	37
学 歴	中 卒	8.0%	26.8%	19.7%	13
	高 卒	68.0	46.3	54.5	36
	大 卒	24.0	12.1	24.2	16
同 胞 順 位	長 子	24.0%	14.6%	18.2%	12
	中 間 子	68.0	56.1	56.1	37
	末 子	20.0	29.3	25.8	17
趣 味	屋 内	4.0%	9.8%	7.6%	5
	ス ポ ー ツ	36.0	46.3	42.4	28
	両 方	36.0	17.1	24.2	16
	な し	24.0	26.8	25.8	17

註) 回答のないものは表よりはぶいている。

※  $\alpha < 0.05$

※※  $\alpha < 0.01$

### 3. 2. 飲酒頻度

同一回答者の現地と帰国後における飲酒頻度を年齢別、職種別、学歴別など項目別に比較して示したのが表2である。「毎日飲む」ものが現地で33.3%から帰国後56.1%に増加し、「ほとんど飲まない」ものが現地で19.7%から帰国後9.1%に減少し、「週1回以上飲む」ものも現地で47.0%から帰国後の33.3%に減少している。年齢別では、20才台で、現地の「ほとんど飲まない」が減少して、帰国後の「毎日飲む」が増加している。30才台では、現地で「週1回以上飲む」が減少して、その分だけ帰国後「毎日飲む」が増加し、40才台では現地で「週1回以上飲む」が減り、帰国後の「毎日飲む」が増えている。職種別では、専門技術者、技術系職員は現地における「ほとんど飲まない」、「週1回以上飲む」ものが減り、帰国後の「毎日飲む」ものが増えている。婚姻別、学歴別、同胞順位別、趣味別でも、同様に現地における「ほとんど飲まない」、「週1回以上飲む」ものが減少し、帰国後の「毎日飲む」ものが増加している。飲酒中、飲酒後の食物に関係なく、現地における飲酒頻度より、帰国後の飲酒頻度が増え、帰国後に「毎日飲む」ものの率が高くなっている。

帰国後の飲酒頻度の変化を項目別に示したのが表3である。どの項目でも、帰国後に飲酒頻度が減ったものが少い。年齢別で帰国後の飲酒頻度に変りないものが58.8%~77.8%で、若年

表2 飲酒頻度の比較

		現地での飲酒頻度			帰国後の飲酒頻度				N (100%)
		ほとんど 飲まない	週1回以 上飲む	毎日飲む	ほとんど 飲まない	週1回以 上飲む	毎日飲む	中止	
年 齢	20 ~ 29才	29.4%	50.0%	20.6%	8.8%	47.1%	41.2%	2.9%	34
	30 ~ 39	13.0	47.8	39.2	13.0	21.7	65.2	0	23
	40 ~	0	33.3	66.7	0	11.1	88.9	0	9
職 種	専 門 技 術 者	12.5%	37.5%	50.0%	0 %	25.0%	75.0%	0 %	16
	技 術 系 職 員	22.9	50.0	27.1	12.5	35.4	50.0	2.1	48
	事 務 系 職 員	0	50.0	50.0	0	50.0	50.0	0	2
婚 姻	未 婚	68.0%	64.0%	8.0%	4.0%	56.0%	36.0%	4.0%	25
	既 婚	16.2	37.8	46.0	10.8	18.9	70.3	0	37
学 歴	中 卒	15.4%	53.8%	30.8%	7.7%	30.8%	61.0%	0 %	13
	高 卒	25.0	36.1	38.9	8.3	30.6	58.3	2.8	36
	大 卒	6.3	68.7	25.0	12.5	43.8	43.8	0	16
同 胞 順 位	長 子	8.3%	50.0%	41.7%	16.7%	33.3%	50.0%	0 %	12
	末 子	23.5	58.8	17.6	17.6	47.1	29.4	5.9	17
	中 間 子	21.6	40.5	37.8	2.7	27.0	70.3	0	37
趣 味	ス ポ ー ツ	25.0%	39.3%	35.7%	3.6%	32.1%	60.7%	3.6%	28
	屋 内	0	80.0	20.0	0	20.0	80.0	0	5
	両 方	18.8	37.5	43.7	18.8	31.2	50.0	0	16
	な し	17.6	58.8	23.5	11.8	41.2	47.1	0	17
飲酒中、飲 酒後の食物	つ ま み	20.0%	80.0%	0 %	0 %	80.0%	20.0%	0 %	5
	料 理	25.0	41.7	33.3	8.3	29.2	62.5	0	24
	料 理 と 御 飯	17.2	48.3	34.5	13.8	31.0	51.7	3.4	29
	料 理 と お に ぎ り	0	50.0	50.0	0	0	100.0	0	2
	お に ぎ り	16.7	33.3	50.0	0	33.3	66.7	0	6
計		19.7%	47.0%	33.3%	9.1%	33.3%	56.1%	1.5%	66

註) 回答なしは省略

※※ α < 0.01

になるほど飲酒頻度が増加したものの率が高くなっている。職種別では、専門技術者に帰国後の飲酒頻度の増加がみられ、婚姻別では未婚者の方に飲酒頻度の増加がみられる。学歴別では、帰国後の飲酒頻度の変化は同じ程度であるが、同胞順位で帰国後の飲酒頻度の増加したものは中間子が43.2%、末子が17.6%、長子はほとんど変りがない。派遣地別にみると、ビルマでは現地と帰国後とで飲酒頻度に変りがないものがほとんどで84%を示すのに対し、東パキスタンでは帰国後の飲酒頻度が増加したものが46.3%と多くなっている。全般的には、飲酒頻度に変りないものが%、帰国後の飲酒頻度が増加したものが%となっている。

派遣地別での飲酒頻度は表4の如くで、ビルマでは現地での「毎日飲む」に変化がなく、「週1回以上飲む」が減って、帰国後に「ほとんど飲まない」ものが若干増えているのに対し、東パキスタンでは、現地での「ほとんど飲まない」、「週1回以上飲む」ものが減少して、帰国後に「毎日飲む」ものが増加している。

表3 帰国後の飲酒頻度の変化

		変りなし	増 加	減 少	N (100%)
年 齢	20 ~ 29才	58.8%	35.3%	5.9%	34
	30 ~ 39	69.6	26.1	4.3	23
	40 ~	77.8	22.2	0	9
職 種	専門技術者	56.2%	37.5%	6.2%	16
	技術系職員	66.7	29.2	4.1	48
	事務系職員	100.0	0	0	2
婚 姻	未 婚	52.0%	44.0%	4.0%	25
	既 婚	75.7	24.3	0	37
学 歴	中 卒	53.8%	38.5%	7.7%	13
	高 卒	63.9	33.3	2.8	36
	大 卒	75.0	18.8	6.2	16
同 胞 順 位	長 子 <sup>※</sup>	83.3%	8.3%	8.3%	12
	末 子	76.5	17.6	5.9	17
	中 間 子	54.1	43.2	2.7	37
趣 味	ス ポ ー ツ	57.1%	39.3%	3.6%	28
	屋 内	40.0	60.0	0	5
	両 方	93.7	6.3	0	16
	な し	58.8	29.4	11.8	17
派 遣 地	ビ ル マ	84.0%	4.0%	12.0%	25
	パ キ ス タ ン	53.7	46.3	0	41
計		65.2%	30.3%	4.5%	100%
N		43	20	3	66

註： 回答なしは省略した。 ※  $\alpha < 0.05\%$

表4 現地と帰国後の飲酒頻度、飲酒量、飲酒の価値づけの比較

		現 地				帰 国 後			
		ビルマ	パキスタン	計	N	ビルマ	パキスタン	計	N
飲 酒 頭 度	ほとんど飲まない	4.0%	29.3%	19.7%	13	8.0%	9.8%	9.1%	6
	週1回以上飲む	32.0	56.1	47.0	31	24.0	39.0	33.3	22
	毎日飲む	64.0	14.6	33.3	22	64.0	51.2	56.1	37
飲 酒 量	0 合	12.0%	9.8%	10.6%	7	4.0%	2.4%	3.0%	2
	~ 1	36.0	46.3	42.4	28	4.0	12.2	9.0	6
	1 ~ 2	36.0	26.8	30.3	20	32.0	31.7	31.8	21
	2 ~ 3	12.0	9.8	10.6	7	48.0	39.0	42.4	28
	3 ~ 4	0	0	0	0	8.0	12.2	10.6	7
	4 ~ 5	4.0	7.3	6.1	4	0	2.4	1.5	1
	5 ~	0	0	0	0	4.0	0	1.5	1
50% - ile値		1.22合	0.97合	1.08合	66	2.25合	2.13合	2.18合	66

飲 酒 の 価 値 づ け	食 物 又 は カ ロ リ	10.3%	4.1%	6.7%	11	6.3%	3.7%	4.7%	8
	源 と し て								
	睡 眠 用 又 は 食 欲	27.9	27.8	27.9	46	31.7	29.9	30.6	52
	増 進 剤 等 の 薬 用								
	行 事 , 儀 式	16.2	15.5	15.8	26	20.6	21.5	21.2	36
	つ き あ い	29.4	34.0	32.1	53	30.2	29.9	30.0	51
	い ら い ら 解 消	11.8	12.4	12.1	20	11.1	14.0	12.9	22
	男 ら し く 見 せ る	1.5	2.1	1.8	3	0	0.9	0.6	1
価 値 な し	2.9	2.1	2.4	4	0	0	0	0	
判 ら な い	0	2.1	1.2	2	0	0	0	0	
N (100%)		25	41		66	25	41		66

表 5 飲酒量の50%—ile値の比較

		現 地 で	帰 国 後	N
年 齢	20 ~ 29才	1.05合	2.23合	34
	30 ~ 39	1.00	2.05	23
	40 ~	2.25	2.38	9
職 種	専 門 技 術 者	1.33合	2.50合	16
	技 術 系 職 員	0.98	2.05	48
	事 務 系 職 員	2.50	2.00	2
婚 姻	既 未 婚	1.13合	2.18合	37
		0.91	2.06	25
学 歴	中 卒	2.00合	2.60合	13
	高 卒	1.07	2.21	36
	大 卒	0.80	1.78	16
同 胞 順 位	長 子	1.17合	2.00合	12
	末 子	0.81	1.90	17
	中 間 子	1.18	2.29	37
趣 味	ス ポ ー ツ	1.25合	2.37合	28
	屋 内	1.25	2.25	5
	両 方	0.78	1.64	16
	な し	1.20	2.21	17
飲 酒 の と き の 食 物	つ ま み	0.67合	1.83合	5
	料 理	1.40	2.32	24
	料 理 と 御 飯	0.84	1.91	31
	お に ぎ り	1.50	2.75	6
計		1.08合	2.18合	66

### 3.3. 飲 酒 量

現地と帰国後の飲酒量の変化は、表4にみられる如くである。0～1合の飲酒量のものが、現地の53.0%から、帰国後の12.0%と激減し、2～3合の飲酒量のものが、現地の10.6%から

帰国後の42.4%に激増している。派遣地別にみても同様の傾向がみられる。飲酒量の分布は対数正規分布をなしている<sup>2)</sup>ので50%-ile値で現地と帰国後の平均飲酒量を比較すると、現地の1.08合が帰国後の2.18合と2倍に増加している。派遣地別にみても同様の傾向があるが、東パキスタンの方が増加率がやや高い。

項目別にみると表5に示す如く、年齢別では若い年齢に帰国後の飲酒量が多くなっており、職種別、婚姻別、同胞順位別、趣味別でも、現地にいるときより帰国後の飲酒量が増加している。飲酒のときの食物別にみると、つまみだけで飲酒するものは、帰国後の飲酒量が現地の3倍となり、料理と御飯を食べるものは、約2倍の飲酒量となっている。

帰国後の飲酒量の変化を項目別に示したのが表6である。年齢別では、飲酒量に变りのないものはどの年齢でも11.1~26.5%で、帰国後の飲酒量が増加したものは67.6~77.8%で、年齢で大きな変化はみられない。職種別では、専門技術者、技術系職員ともに帰国後の飲酒量が増加したものは70%前後を示している。婚姻別では未婚、既飲にかかわらず70%前後が帰国後の飲酒量が増加している。学歴別では、中卒者は帰国後の飲酒量の増加したものが少く、逆に減少したものが15.4%もいる。同胞順位別でみると、長子は33.3%が飲酒量に変化がなく、増加が58.3%で、末子、中間子に比して少い。派遣地別にみると、ビルマ派遣員の84.0%は帰国後

表6 帰国後の飲酒量の変化

		変りなし	増	加	減	少	N (100%)
年 齢	20 ~ 29才	26.5%	67.6%		5.9%		34
	30 ~ 39	21.7	73.9		4.3		23
	40 ~	11.1	77.8		11.1		9
職 種	専門技術者	25.0%	68.8%		6.2%		16
	技術系職員	22.9	72.9		4.1		48
	事務系職員	0	50.0		50.0		2
婚 姻	未 婚	24.0%	68.0%		8.0%		25
	既 婚	24.3	70.3		5.4		37
学 歴	中 卒	30.8%	53.8%		15.4%		13
	高 卒	16.7	77.8		5.5		36
	大 卒	31.2	68.8		0		16
同 胞 順 位	長 子	33.3%	58.3%		8.3%		12
	末 子	17.6	70.6		11.8		17
	中 間 子	21.6	75.7		2.7		37
趣 味	ス ポ ー ツ	17.9%	75.0%		7.1%		28
	屋 内	20.0	60.0		20.0		5
	両 方	31.2	68.8		0		16
	な し	23.5	70.6		5.9		17
派 遣 地	ビ ル マ	8.0%	84.0%		8.0%		25
	パ キ ス タ ン	31.7	63.4		4.9		41
計		22.7%	71.2%		6.1%		100%
N		15	47		4		66

の飲酒量が増加しており、東パキスタン派遣員の31.7%は飲酒量に変化なし、63.4%が増加している。

一般的に帰国後の飲酒量は、変化なしが22.7%、増加が71.2%、減少6.1%となっており、3分の2以上のものに飲酒量の増加がみられる。

### 3. 4. 飲酒の価値づけ

飲酒の価値づけは、現地と帰国後においても余り大きい変化がみられない(表4)。現地では、第1位「つきあい」32.1%、第2位「睡眠用又は食欲増進剤等の薬用」(以下「薬として」と記す)27.9%、第3位「行事・儀式」15.8%、第4位「いらいら解消」12.1%の順になっており、帰国後では、第1位「薬として」30.6%、第2位「つきあい」30.0%、第3位「行事・儀式」21.2%、第4位「いらいら解消」12.9%となっている。帰国後の第1位と第2位がわずかの差で現地における順位と逆転している。ビルマでは、「薬として」が現地の27.9%、帰国後の31.7%と増え、「行事・儀式」も現地16.2%が帰国後20.6%と増え、「つきあい」、「いらいら解消」は余り変化がみられない。東パキスタンでは、「薬として」が現地27.8%、帰国後29.9%と増え、「行事・儀式」も現地15.5%から帰国後21.5%に増加し、「いらいら解消」も現地12.4%、帰国後14.0%に増えているが、「つきあい」は現地34.0%、帰国後29.9%と減少しているのが特徴的である。また、「価値なし」、「判らない」が現地ではわずかにみられたのが、帰国後ではビルマ、東パキスタンともに0となっている。

帰国後の飲酒頻度の変化と飲酒の価値づけとの関係を現地と帰国後と比較して示したものが表7である。帰国後の飲酒頻度が増加したもののうちで、「食物としては」現地の27.3%から帰国後の12.5%と著しく減少しており、「薬として」は現地の26.1%、帰国後30.8%、「行事・儀式」は現地26.9%、帰国後36.1%、「つきあい」は現地34.0%、帰国後29.4%とやや減

表7 帰国後の飲酒頻度の変化と飲酒の価値づけ

	増加			変化なし			減少			N (100%)	
	ビルマ	パキスタン	計	ビルマ	パキスタン	計	ビルマ	パキスタン	計		
現 地	食物として	14.3%	50.0%	27.3%	71.4%	50.0%	63.6%	14.3%	0%	9.1%	11
	薬として	5.3	40.7	26.1	89.5	59.3	71.7	5.3	0	2.1	46
	行事・儀式	0	46.7	26.9	90.9	53.3	69.2	9.1	0	3.8	26
	つきあい	5.0	51.5	34.0	85.0	48.5	62.3	10.0	0	3.8	53
	いらいら解消	0	41.7	25.0	87.5	58.3	70.0	12.5	0	5.0	20
	男らしく見せる	0	0	0	100.0	100.0	100.0	0	0	0	3
	価値なし	0	50.0	25.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0	25.0	4
判らない	0	100.0	100.0	0	0	0	0	0	0	2	
帰 国 後	食物として	0%	25.0%	12.5%	100.0%	75.0%	87.5%	0%	0%	0%	8
	薬として	5.0	46.9	30.8	80.0	53.1	63.5	15.0	0	5.8	52
	行事・儀式	7.7	52.2	36.1	84.6	47.8	61.1	7.7	0	2.8	36
	つきあい	0	46.9	29.4	84.2	53.1	64.7	15.8	0	5.9	51
	いらいら解消	14.3	33.3	27.3	85.7	66.7	72.7	0	0	0	22
	男らしく見せる	0	0	0	0	100.0	100.0	0	0	0	1
	価値なし	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	判らない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表8 帰国後の飲酒量の変化と飲酒の価値づけ

		増 加			変 化 な し			減 少			N (100%)
		ビルマ	パキスタン	計	ビルマ	パキスタン	計	ビルマ	パキスタン	計	
現 地	食物として	57.1%	50.0%	54.5%	14.3%	50.0%	27.3%	28.6%	0 %	18.2%	11
	薬として	78.9	55.6	65.2	10.5	40.7	28.3	10.5	3.7	6.5	46
	行事、儀式	72.7	60.0	65.4	18.2	40.0	30.8	9.1	0	3.8	26
	つきあい	80.0	66.7	71.7	10.0	30.3	22.6	10.0	3.0	5.7	53
	いらいら解消	75.0	50.0	60.0	0	50.0	30.0	25.0	0	10.0	20
	男らしく見せる	100.0	100.0	100.0	0	0	0	0	0	0	3
	価値なし	100.0	50.0	75.0	0	50.0	25.0	0	0	0	4
	判らない	0	100.0	100.0	0	0	0	0	0	0	2
帰 国 後	食物として	75.0%	75.0%	75.0%	0 %	25.0%	12.5%	25.0%	0 %	12.5%	8
	薬として	80.0	59.4	67.3	10.0	40.6	28.8	10.0	0	3.8	52
	行事、儀式	100.0	73.9	83.3	0	21.7	13.9	0	4.3	2.8	36
	つきあい	89.5	59.4	70.6	5.3	37.5	25.5	5.3	3.1	3.9	51
	いらいら解消	75.0	50.0	60.0	0	50.0	30.0	25.0	0	10.0	22
	男らしく見せる	100.0	100.0	100.0	0	0	0	0	0	0	1
	価値なし	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	判らない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

少し、「いらいら解消」は現地25.0%、帰国後27.3%とやや増加している。派遣地別で、ビルマでは「食物として」が現地の14.3%から帰国後は0%となり、「行事・儀式」が現地0%から帰国後7.7%と増え、「つきあい」が現地5.0%、帰国後0%と減り、「いらいら解消」が現地の0%から帰国後の14.3%と増えている。東パキスタンでは、「食物として」は現地の50%より帰国後は半減し、「薬として」、「行事・儀式」は帰国後にやや増え、「つきあい」は現地の51.5%より帰国後の46.9%に減っており、「いらいら解消」も帰国後が減っている。

帰国後の飲酒頻度の变りなしのもので、「食物として」、「つきあい」、「いらいら解消」が現地より帰国後に多くなり、「薬として」、「行事・儀式」は帰国後に減少している。ビルマ、東パキスタンともに同じ現象がみられる。

帰国後の飲酒頻度の減少したものでは、「薬として」、「つきあい」が帰国後に多くなり、「食物として」、「行事・儀式」、「いらいら解消」が帰国後に少くなっている。東パキスタンでは、帰国後の飲酒頻度の減少したものは全くおらない。

帰国後の飲酒量の変化と飲酒の価値づけとの関係を現地と帰国後と比較して示したのが表8である。帰国後に飲酒量が増加したものでは、「食物として」は現地54.5%、帰国後75.0%、「行事・儀式」は現地54.5%、帰国後83.3%と帰国後の値が高くなっている。「薬として」、「つきあい」、「いらいら解消」は現地と帰国後とあまり変らない。派遣地別にみても、ビルマ、東パキスタンともに同様の傾向を示している。

帰国後の飲酒量の変化のないものでは、現地より帰国後に値が低くなっているのは、「食物として」現地27.3%、帰国後12.5%、「行事・儀式」現地30.8%、帰国後13.9%とである。「つきあい」は現地22.6%、帰国後25.5%とやや値が低くなっている。「薬として」、「いらいら解消」は変化がみられない。派遣地別で、ビルマでは「食物として」、「行事・儀式」は帰国後0%となり、「つきあい」は現地の10.0%から帰国後の5.3%と少くなっている。東パキスタ



ンでは「食物として」、「行事・儀式」は帰国後の値が約2分の1となっており、「つきあい」、「いらいら解消」は現地と帰国後とで変化がみられない。

帰国後の飲酒量が減少したものでは、「食物として」、「薬として」、「行事・儀式」、「つきあい」などは帰国後の値が低くなり、「いらいら解消」は帰国後も同じ値を示している。派遣地別では、ビルマに「行事・儀式」、「つきあい」が帰国後に著しく減少している。

#### 4. 要約及び考察

海外から帰国後のアンケート調査の回答者の属性は、前報<sup>1)</sup>で発表した現地での調査対象者の属性と極めて類似しており、ほとんど同じものと考えてよい。飲酒頻度、飲酒量、飲酒の価値づけについて、海外派遣がどのような影響を与えたかを、現地と帰国後の比較から検討を行った。

##### 4.1. 飲酒頻度

「ほとんど飲まない」ものが現地で19.7%あったものが、帰国後は9.1%と半減し、「週1回以上飲む」ものが、現地の47.0%から帰国後の33.0%に減少し、逆に「毎日飲む」ものが現地の33.3%から帰国後には56.1%に増加している。帰国後の飲酒頻度が減少したものは僅かに4.5%で、約 $\frac{1}{3}$ のものが飲酒頻度が増えている。帰国後の飲酒頻度が増す率は若年者ほど高く、職種別では専門技術者に高く、婚姻別では未婚者が高く、学歴では中卒者に高く、同胞順位別では長子は低くなっている。前報で海外派遣が飲酒量の抑制をもたらしたと増告したが、これは飲酒量だけでなく、飲酒頻度にも抑制的に作用していることがわかる。おそらく、海外派遣と言うことで緊張した状態で、事にあたって控え目に抑制されているものと考えられる。

派遣地別では、ビルマ派遣者は現地と帰国後の飲酒頻度に余り変りがないが、東パキスタン派遣者は帰国後に「毎日飲む」ものが著しく増加している。その理由として、東パキスタン派遣者には若年者が多く、未婚者が多いと言うことのほか、東パキスタンには適当に遊ぶ所があったと言うことが現地での飲酒頻度を少くしていたことも理由の一つと考えられる。

##### 4.2. 飲酒量

飲酒量は現地よりも帰国後の方が増加しており、派遣員の $\frac{2}{3}$ が帰国後の飲酒量の増加を来している。半数に近い42.4%のものが、帰国後には2～3合の飲酒をしており、平均飲酒量と比較してみても、帰国後の飲酒量は現地の約2倍となっている。帰国後の飲酒量の増え方は、年齢が若いほど大きく、既婚者より未婚者に大きい。派遣地別では、ビルマ派遣者の方が帰国後の飲酒量がやや多い。

海外派遣と言う条件では飲酒量が抑制され、現地での飲酒量は少くなっている。抑制される最大の理由は、言語、風俗、宗教、習慣その他の生活環境の相違のために生ずる緊張感、疎外感、孤独感、警戒などによると考えられる。その他、帰国後に海外での抑制の反動、海外でのアルコール濃度の高い酒類に慣らされたためなども帰国後の飲酒量の増大の理由として考えられる。

##### 4.3. 飲酒の価値づけ

現地における飲酒の価値づけの第1位は「つきあい」、第2位「薬として」、第3位「行事・儀式」、第4位「いらいら解消」の順となっている。帰国後の飲酒の価値づけの第1位は「薬

として」、第2位「つきあい」、第3位「行事・儀式」、第4位「いらいら解消」となっている。現地の順位と帰国後の順位の第1位と第2位がわづかの差で逆転している。「つきあい」の帰国後の値が少く減っているのに対し、「薬として」の帰国後の値の増え方が大きい。「薬として」、「つきあい」、「行事・儀式」は他の集団の調査<sup>3)</sup>でも、飲酒の価値づけで多い内容である。現地で「つきあい」が第1位であることからしても、現地では人間関係が無意識のうちに優先されていることがわかる。現地も帰国後も同じ順位であっても、「行事・儀式」が帰国後に大きく増加し、「いらいら解消」が帰国後にわづかに増えている。これらのことから、日本では飲酒の伴う公的・私的な「行事・儀式」が多く、また海外における緊張感よりくるストレスよりも日本における種々なストレスの方が強く、飲酒に向ける率を現地よりもやや上まわる値が出たと推察することができる。現地で「価値なし」、「判らない」が少数あったものが、帰国後では0となっているのも、日本における方がストレスが大きいためであろう。現地で「価値なし」、「判らない」と答えた6人のうち、帰国後に飲酒頻度が増加したものは3人、飲酒量が増加したのは5人いることからしても、上述のことがらが推測できる。

帰国後の飲酒頻度が増加したもののうちで、帰国後の飲酒の価値づけの率が高くなっているのは、「行事・儀式」、「薬として」、「いらいら解消」であり、帰国後の飲酒の価値づけの率が低くなっているのは「食物として」、「つきあい」となっている。やはり、日本では飲酒に伴う「行事・儀式」が多く、ストレスも多いことを示していると言える。飲酒頻度の変化のないものでは、「食物として」が著しく増加しているのは、このグループが酒好きのためであろう。飲酒頻度が減少したのは、あまり酒の好きでないグループであり、帰国後には「つきあい」が少くなっており、現地では「つきあい」で飲んでいたと考えられる。

帰国後の飲酒量の増加したもののうちで、帰国後に飲酒の価値づけの率が高くなっているのは、「行事・儀式」、「食物として」である。飲酒量に変化のないものでは、「食物として」、「行事・儀式」が著しく減少している。両群とも「つきあい」はやや減少し、「いらいら解消」は変化がない。これらのことより、帰国後の飲酒量の増加は、現地でアルコール濃度の高い酒を飲んできた慣性も一因していることは確実である。また、現地では「つきあい」を通じた人間関係が重視され、ともに飲酒することで意志の疎通がはかられていることがうかがえる。

「いらいら解消」のため飲酒するもののうちで、帰国後の飲酒頻度、飲酒量ともに増加したグループでの現地と帰国後の比較は、飲酒量の変化での価値づけに差がなく、飲酒頻度ではやや帰国後で大きくなっている。飲酒量をストレスの強さ、飲酒頻度をストレスの密度を示す指標と解すれば、上述のことは、ストレスの強さについては、内容こそ違っても現地と日本ではあまり変わらないで、ストレスの密度では日本の方が少し大きいと言うことになる。

## 5. おわりに

ビルマ及び東パキスタンに派遣された重工業技術者の帰国後の飲酒調査を行い、現地での調査と比較して、海外派遣が飲酒にいかなる影響を与えるかを中心に検討を行い、次のような結論を得た。

- 1) ほとんどのものが帰国後の飲酒頻度が増え、若年者、未婚者、中卒者、専門技術者に飲酒頻度が増加している。特に東パキスタン派遣者に帰国後の「毎日飲む」ものが著しく増えている。
- 2) 派遣員の $\frac{3}{4}$ が現地よりも帰国後に飲酒量が増加しており、若年者、未婚者に帰国後の飲

酒量の増え方が大きい。約半数のものが帰国後の飲酒量は2～3合で、帰国後の平均飲酒量は現地の約2倍である。ビルマ派遣者の方が東パキスタン派遣者より帰国後の平均飲酒量がやや多い。

3) 帰国後の飲酒頻度の増え方よりも、飲酒量の増えの方が著しい。

4) 帰国後の飲酒の価値づけの第1位の「薬として」と第2位の「つきあい」が現地の順位と逆転している。帰国後では「行事・儀式」の増え方が大きい。帰国後において「価値なし」、「判らない」が全く0になっている。現地での飲酒は「つきあい」に重点がおかれ、「いらいら解消」は帰国後の方にむしろ若干増加している。

5) 現地においては、言語、風俗、宗教、その他の生活環境の相違のために生ずる緊張感、疎外感、孤独感、警戒などにより、飲酒頻度、飲酒量に抑制的に作用している。

6) 現地で飲む酒のアルコール濃度が高いので、その惰性として帰国後の飲酒量が増える傾向にある。

7) 飲酒頻度をストレスの密度、飲酒量をストレスの強さを示す指標と解すれば、ストレスの強さは余り現地と日本と変わらないが、ストレスの密度は日本の方が大であると言える。

## 文 献

- 1) 額田 粂他：飲酒に対する海外派遣の影響，中国短期大学紀要，第3号：1～17，1972.
- 2) 佐々木武史他：重工業の従業員の飲酒と健康についての調査（第2報），アルコール研究，7（1）；15～20，1972.
- 3) 佐々木武史他：男子従業員の飲酒調査，松仁会誌，第9集；65～68，1970.